令和6年度　磐田市立磐田南小学校　　学校評価書

重点	目標・取組	評価指標	評価（%） 児童	保護者	職員	自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から
生き生きと学び合う子（知）	自ら考え、学び合い高め合う子を育てる	・進んで聞いたり調べたりして学習している	69%	54%	65%	B	○一人一台端末の導入から4年が経ち、児童にとってインターネット等を活用して調べ学習を行うことは定着してきている。学習内容に応じて、学校図書館の図書を利用した調べ学習も行うことができた。 ※児童、保護者、教員すべてにおいて評価が低い。学習に対する主体性が課題である。本年度は「単元全体を通して解決する問いを設定する単元構想」について研修を深めた。校内研修の成果を生かし、どの教科においても、単元を通して子供が自ら考えたくなるような授業を展開していく必要がある。	・授業参観をしたが、どの学年も落ち着いて授業に臨んでいた。1年間の育ちを感じた。 ・授業の中で、子供同士で教え合う姿がよく見られた。共に学ぶ姿がよい。 ・「自ら考え、学び合い」を高めるためには、授業での課題の設定の仕方等にさらなる工夫が必要のように感じる。 ・授業の様子を見てもインターネットを活用した授業は定着してきていると思う。漢字等を書いて覚えることも合わせて大切にしてほしい。 ・「やってみよう」の時間は名前のとおり効果的だと感じた。
	確かな学力の身に付いた子を育てる。	・学習内容を理解している	85%	78%	65%	B	○「やってみよう」の時間を利用し、漢字、計算の小テストやスキルの直し等を行ったことで、基礎学力の定着が図られた。また、日々の授業において、児童が他者と対話する時間を設けることで、授業内容の理解ができるよう努めてきた。 ※令和7年度は、通信票を2期制とすることで、授業時間や教員が児童と関わる時間が確保できる。児童に確かな学力が身につくよう、創出した時間を有効活用していく。	
仲よく活動する子（徳）	自分も相手も大切にし、仲良く活動する子を育てる	・挨拶や返事ができる	79%	83%	63%	B	○約8割の児童が肯定的な回答をしている。あいさつ委員会による朝の校門での挨拶運動や「あいさつすごろく」の取り組み等が効果的だったと言える。「あいさつすごろく」は、児童の創意工夫が生かされた取り組みであり、学校全体を巻き込んで挨拶への意欲を高めることができた。今後もよりよい取り組みを称揚し、挨拶ができる子を育てていく。 ※教員の評価は、やや低いものとなった。挨拶だけでなく、爽やかな返事もできる児童を育てていく。よい返事ができた場面を褒めることで、児童の意欲を高めていきたい。	・横断歩道でお礼の頭を下げて挨拶をする児童が多い。校内に用事で伺った時も「こんにちは」と挨拶を積極的にしてくれる。 ・個人や組織目標に向けてしっかり行動できている。 ・目標に対して取り組む力は高い評価になっており、良い事である。ルールを守り、協力して行動する力が高い評価になっている事は素晴らしい。 ・自治会役員として交通安全該当キャンペーンを行っている際、小学生のほとんどが明るい挨拶をしており、気持ちが明るくなる。 ・挨拶において、委員会や楽しみながら定着を目指すアイデアは、明るい取り組みだと感じた。 ・決まりについては、繰り返し指導することと、指導する先生方の共通理解と一貫性が大切だと思う。
		・目標に向かって粘り強くやり抜くことができる	83%		92%	B	○本年度は「児童が考えて動く委員会活動」を重点とし、各委員会が創意工夫した活動を行うことに力を入れた。ふれあい本部による「南っ子自慢大会」や友達の輪委員会による縦割りでの集会など、児童が学校全体を動かし、活動をやり遂げる姿が多く見られた。 ※本項目で狙う力をさらに育成するため、ステージごとの目標を意識し、児童が自分を振り返ることにより力を入れていく。	
	よりよい自分に向かって粘り強く活動する子を育てる	・ルールを守り、協力して生活している	82%	82%	100%	B	○縦割り清掃で上級生が下級生に優しく掃除のやり方を教える姿、ふれあい遊びで学年が違っても協力して仲良く遊ぶ姿が見られた。このような良い姿が見られるものの、廊下歩行やトイレ使用の際の履き物の整頓等、改善が必要な場面もある。 ※ルールやきまりの意味を児童が理解できるような指導を繰り返し行っていく。令和7年度始めには、トイレの改修工事が終了する予定である。新しいトイレを皆が気持ちよく使用できるよう、ルールを守ることの意味を伝えていく。	
健康で安全な生活をする子（体）	運動や食を通して、心身共に健康な生活をする子を育てる	・体育授業や体育的行事に目標を持って取り組み、がんばっている	89%		100%	A	○「児童が創る運動会」を目指し、表現運動で児童が考えた振付を取り入れる、団体種目のルールを児童と考える等、各学年の教員が児童のアイデアや思いを大切に種目等を考え実施したことで、児童が達成感をもつことができた。また、かけ足週間では、走る楽しさを味わえるよう発達段階に合った学習内容を考え、自分の目標タイムや目標周数をもって取り組めるようにした。自分の目標に向け、走力を磨く児童の姿が多く見られた。 ※来年度も運動会は、秋開催とする。本年度の成果を受け、よりよいものとなるよう努め、目標をもって体育的行事や体育授業に取り組める児童を育てていく。	・安全面については、一部の児童の対応が職員の評価を下げているように思う。全体的には、体育授業の点も含めて非常によい評価と理解する。継続を期待する。 ・健康な体作りへの取り組みも高い評価になっており、先生方の努力が成果になって表れているように感じる。 ・子供たちは、校内で地震が起きたらどうするか理解できているが、登下校中に地震が起きたらしっかり自分の身を守ることができるのだろうか。いろいろな場での訓練ができると安心するのではないかと思う。 ・運動会やかけ足週間では、児童が安心感をもち取り組める工夫をしていると感じた。友達やクラスで一体感を感じられる経験と自分自身と向き合い自分なりにやってみる経験による学びや育ちは生きる力につながる。
	ルールを守り、安全な生活をする子を育てる	・安全に気を付けて生活している	89%	90%	79%	B	○大半の児童が落ち着いた生活を送ることができている。9割に近い児童が肯定的な回答をしており、安全に気を付けて生活していると捉えている児童が多い。 ※一部の児童については、生徒指導上の対応が必要である。その都度、ケース会議等を開き、個別の対応を検討していく。また、学年主任の会議で、情報共有をし学校体制で対応していく。本年度実施した避難訓練では、課題が見られた。令和7年度学校経営方針の基本に「命を救う避難訓練」と示されている。本年度の反省を受け、目的と児童らに指導すべきことを明確にした避難訓練を、年間を通して計画的に行っていく。	

学校関係者評価を受けてのまとめ

学校関係者の評価は、概ね肯定的であった。子供たちの1年間の成長を感じた学校運営協議委員が多く、本校の取り組みについて理解を得た。本年度の成果を課題を来年度の教育課程に生かしていく。令和7年度は、通信票を2期制とし、教員が子供の向き合う時間の確保する。創出した時間を、「子供が自ら考えたくなる授業づくり」を目指した校内研修、「子供が考えて動く委員会活動」を行うため話し合いの時間、「子供が考え創る運動会」を実施する準備の時間等に充てることで、さらなる教育活動の充実を目指し、「夢をもち、ともににやりぬく　南っ子」の育成を進めていく。